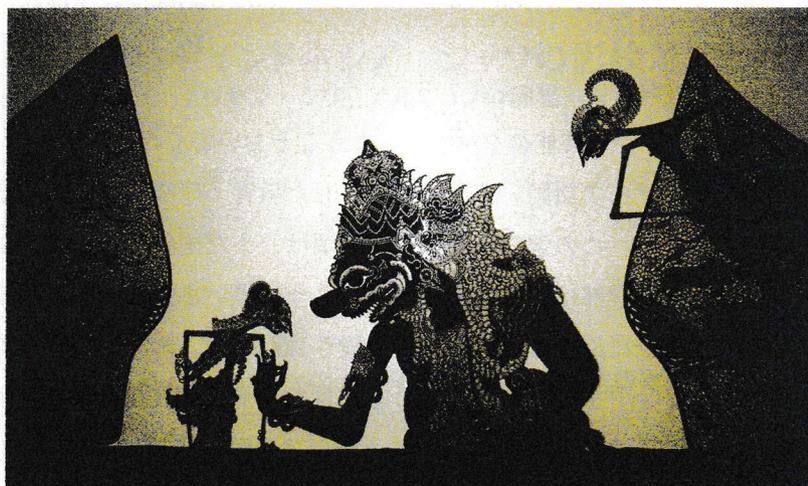


第3回 アジア芸能の夕べ

—光と影が織りなす神々の祭り—



大東文化大学東松山キャンパス60周年記念講堂

2009年

10月24日(土)

開場 14:00
開演 14:30
終演 17:30(予定)



主催 / 大東文化大学国際関係学部 後援 / 東松山市・東松山市国際交流協会 協賛 / NPO法人日本ガムラン音楽振興会



「アジア芸能の夕べ」へようこそ

国際関係学部長
松井 弘明

皆様、本日は国際関係学部の「アジア芸能の夕べ」へ、ようこそおいでくださいました。大東文化大学国際関係学部は、アジア諸国・地域を中心とした教育・研究を行っています。今年で創設23年目を迎えました。この学部が創設された頃は、まだ国際関係の学部は少なく、ましてアジアを中心とした学部はほとんどなかったように思います。そのような中、東洋文化を重視する本学の理念に沿った学部として創設されたのが、国際関係学部です。いまやアジア諸国は中国・インドをはじめ、多くの国が目を見張る発展をし、国際政治・経済・文化の中心となりつつあります。しかし同時に、アジアは政治体制・民族・宗教・経済の発展程度・文化等において実にさまざまです。国際関係学部はこの多様なアジアを政治・経済・文化・芸術などさまざまな面から捉え、理解を深めることを目的にしています。このような研究・教育が評価され、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」(2006年度特色GP)に採択されました。「アジア芸能の夕べ」は、その一環として2007年度から行われている国際関係学部の行事です。特色GPは昨年度で終了しましたが、「アジア芸能の夕べ」は大変ご好評をいただき、継続を望む声が多数寄せられたため、本年度は学部の独自企画として実施することになったものです。これまでインドネシア、韓国、インド、中国、タイ、西アジア等の音楽・舞踊を上演してきました。本年はインドネシア・ジャワの影絵芝居とガムラン、および韓国のサムルノリをごらん頂きます。

インドネシア・ジャワの影絵芝居は、10世紀ごろから続いているまさに伝統芸術です。サムルノリは韓国の地方で農楽に用いられる、天地・宇宙を表すという4種の打楽器で演奏されますが、そのリズムがなんとも心地よく体に響いてきます。今年は舞台の上演に加え、本学部学生によるインド楽器の演奏やビデオの上映もごさいます。

今年は近隣の皆様に加え、高等学校の生徒さんもお招きしました。日本はアジアに位置しながら、意外にアジアの文化に触れる機会は少ないように思います。アジアの伝統音楽をお楽しみいただきながら、アジア文化への理解を深めるきっかけにいただければと思います。

Program

2009年10月24日(土)

▶14:00 開 場

▶14:30 インドネシア ジャワの影絵芝居とガムラン ワヤン・クリ「アルジュノの饗宴～マハーバーラタより」

演奏 ガムラングループ・ランバンサリ
ダラン (人形遣い) ローフィット・イブラヒム

▶15:30 休 憩

- 大東文化大学学生によるインド古典音楽演奏
(於: 60周年記念講堂 2階ロビー)
演奏 小尾淳 (ヴィーナー)、井上春緒 (タブラー)、
斎藤悠志・新井剛 (シタール)
- ワヤンのセット見学 (於: 60周年記念講堂)
- アジア音楽のビデオ上映 (於: 図書館地下1階 AVホール)
- 図書館1階新聞・雑誌コーナー (休憩中にご利用ください)
- 大東まんじゅう・お茶販売 (於: 60周年記念講堂前)

▶16:30 韓国 伝統打楽サムルノリ

1. ムンクッ (門巫) キルノリ (行道遊び)
2. サムド ソルチャング カラクッ (三道 ソル杖鼓)
3. サムド ノンアク カラクッ (三道 農楽)
4. パンクッ

演奏 アンデミ ノルムセ

司会進行 関谷元子 (音楽評論家)
舞台監督 中村 卓

インドネシア ジャワの影絵芝居とガムラン

■ 出演者紹介

ガムラングループ・ランバンサリ / Gamelan Group Lambangsari

インドネシア中部ジャワのガムランを演奏するグループ。1985年結成。

2002年ソウル公演「日韓文化交流事業～ジャワのガムランと舞踊」。2004年インドネシアの人気女形舞踊家ティティ・ニニ・トウォ氏との共演により、結成20周年特別記念公演「青銅音曲VI」を開催、同公演をライブ収録したDVD「万華鏡」(JMVK-1002)をおーらいムービーズより発売。同年テレビ朝日「タモリ倶楽部」「題名のない音楽会21」、2006年日本テレビ「ぶらり途中下車の旅」に出演。同年ケンタッキーフライドチキンCM音楽担当。2008年ジャワからダラン(人形遣い)のプルボ・アスモロ氏を招聘し、自主公演10回記念公演「青銅音曲X～ジャワの影絵とガムラン」を東京と神戸で開催。

自主公演の他、テレビ出演、各種イベントへの参加、初級講座やワークショップの開催、学校の芸術鑑賞教室等、幅広い活動を行っている。

<http://www.lambangsari.com>

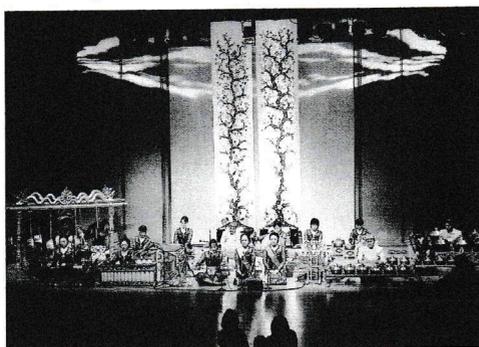
ガムラン演奏：木村佳代、小迫直子、櫻井陽、沢井佳、白井真由美、鈴木路子、二藤宏美、樋口文子
村上圭子、森重行敏、亀島良泉

友情出演：佐々木宏美 (HANA★JOSS)

音響協力：河内登

字幕操作：小谷竜一

クリル(スクリーン)製作：峰野誉久、山科勝司



ダラン(人形遣い): ローフィット・イブラヒム / Rofit Ibrahim

1979年インドネシア、ジョグジャカルタ州スレマン生まれ。幼少の頃よりガムランとワヤンに魅かれ、演奏を始める。インドネシア芸術高校ジョグジャカルタ校、インドネシア芸術大学ジョグジャカルタ校を経て、卒業後はジョグジャカルタにあるパクアラマン王宮のガムラン演奏家としても活動。2005年より日本に在住し、滋賀県や神戸市のガムラングループでガムランを教える他、ガムラン・ワヤンユニットHANA★JOSSリーダーとして、ライブコンサート、ワークショップ、ワヤン上演など、各地で活動中。

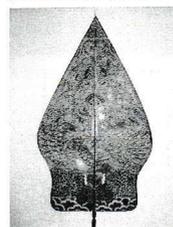
<http://hanajoss.net/>

<http://hanajoss.exblog.jp/>



by Taichi Yuhei

本編の主な登場人物

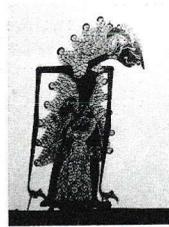


グヌンガン

(森羅万象・宇宙の象徴)



アルジュノ



チプトニン



プトログル



スプロボ



ニウオトカウオチヨ

ワヤン・クリとは

幾世紀にも渡って演じられてきたジャワの影絵人形芝居「ワヤン・クリ」。ワヤンは影、クリは皮の意味で、なめした水牛の皮に繊細な浮き彫りを施し彩色した人形が使われることからこのように呼ばれています（略してワヤン）。ワヤンの種類は、上演される物語の内容によっても幾つかに区別されますが、主流を成すのはワヤン・プルウォと呼ばれる、インドの古代叙事詩「ラーマヤナ」と「マハーバーラタ」を素材とするものです。この二つの物語は10世紀にはジャワに入り、次第にジャワ化して中世ジャワの詩文学の核となるとともに、ワヤンの素材ともなりました。

ワヤンはダラン（人形遣い）とガムラン音楽（金属製打楽器を中心にした合奏音楽）により上演されますが、ダランは単に人形を操作するだけでなく、登場人物により声色を変えながら語り、朗唱し、足の指に挟んだ木槌で金属板を叩いて楽隊に音楽の合図を送るなど、一人で幾つものことをこなしながら物語を繰り広げていきます。

本来のワヤンは夜の9時頃から翌朝の4～5時にかけて夜を徹して行なわれ、時間の経過や物語の展開に従って音楽の曲調も変化します。本日はこれを約1時間に凝縮して上演致します。物語の粗筋は決まっているものの、それがどのように展開されるかはダランの気持ちしだい！ 場面ごとに即興的に繰り出される合図とそれに即応するガムラン音楽との一体感もまた、ワヤンを鑑賞する醍醐味の一つといえます。

演目解説

「アルジュノの響宴～マハーバーラタより」

本日上演する物語は、「マハーバーラタ」第3篇「森の書」の一挿話をもとに、東部ジャワのクディリ国のアイルランガ国王治世下にジャワ風に翻案されたもので、1028～35年頃に成立したとされています。

ストーリー

「マハーバーラタ」の主人公である、バラタ族のパンダワ家の5人の王子たち。その三男であるアルジュノが山中で苦行をしている所（この時のアルジュノはチプトニンの名で呼ばれる）へ、インド神に遣わされた天女がアルジュノを誘惑しようとしてやってくる。実は、魔王ニウオトカウオチョが天界を荒らし回っており、これを壊滅させるために神々は苦行中のアルジュノに注目し、アルジュノがいまだ武士としての強い心根を保っているか試そうとしたのである。天女を見事跳ね飛ばし、神の試練に耐えたアルジュノはインド神から祝福を受け、苦行を終えて髪を結び、武将の装いに着替え、お供の道化たちを従えて出発する。

一方、この噂を聞きつけた魔王ニウオトカウオチョは、家臣のマンムルコとその家来たちを森に派遣する。山を破壊し森をなぎ倒して進む一行に遭遇したアルジュノは、マンムルコを猪に変身させ、アルジュノと猪との戦いになる。アルジュノが猪に向けて矢を放った瞬間、別方向からもう1本の矢が放たれ、両方の矢は同時に猪に命中し、更にはこの矢を放った狩人とアルジュノとの戦いとなるが、これもまた神の試練であった。互角の戦いの後、狩人は宇宙支配の神プトログルの姿に戻り、秘矢パソパティをアルジュノに授け、あらためてニウオトカウオチョの成敗を懇請する。

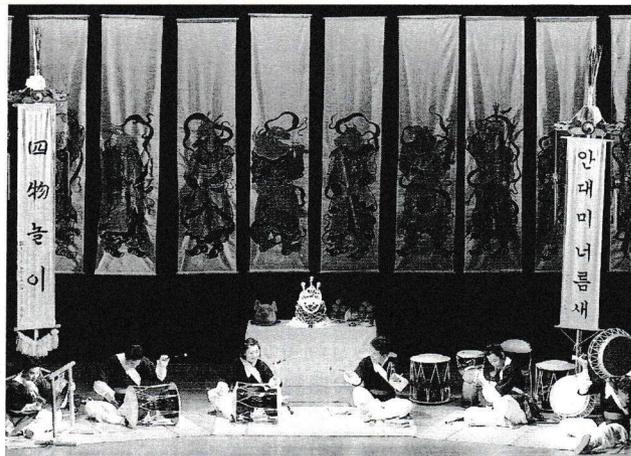
ニウオトカウオチョに戦いを挑むアルジュノだったが、魔王は牙を持つ巨大な怪物でなかなか倒すことができない。魔王の唯一の弱点は喉仏であり、そこへ矢を刺すことができれば倒せるのだが、そのことを自覚する魔王は常に歯をくいしばり、大口を開くことはないのだ。そこでアルジュノは一計を案じ、魔王が一方的に恋心を寄せる天界の美女スロボ姫に芝居をさせ、魔王を喜ばせることで油断させようとする。スロボ姫の芝居に騙された魔王は、嬉しさのあまり我を忘れて大口を開けて笑い、そこへアルジュノが秘矢パソパティを放ち、遂に魔王を倒すに至る。

韓国 伝統打楽サムルノリ

■ 出演者紹介

アンデミ ノルムセ

アンデミとは、韓国の代表的打楽器、チャング（杖鼓）の隠語で、ノルムセは、腕前がよい、体裁がよい、リズムを上手に叩くという意味が込められている。アンデミ ノルムセは、韓国伝統打楽サムルノリの創始者として名高い金徳洙（キム・ドクス）をはじめ著名演奏家に師事し、日本でサムルノリ後継者として活躍中の在日韓国人、康明洙（カン・ミヨンス）を中心に2004年に創設されたグループで、サムルノリの演奏や普及活動を活発に行っている。



サムルノリ演奏をはじめ、サムルノリ教室・チャング教室の運営やワークショップ等、普及活動や次世代の育成にも力を注ぎ、韓国を紹介するイベント・韓日交流イベント・国際交流イベント・学校音楽鑑賞公演にも積極的に参加するなど、国際交流の架け橋としても、幅広い活動を行っている。メンバーはサムルノリ演奏の他、韓国の伝統民族楽器奏者、日本の神楽奏者、邦楽打楽器奏者としても活躍し、サムルノリのリズムを神楽や邦楽の演奏にも取り入れ、音楽の幅を広げている。そして、伝統音楽の心髄を揺るがすことなく、韓国伝統音楽を未来に向けて発信して行くことを目指している。

<http://www.fan.hi-ho.ne.jp/t-myungsoo/anndemi.html>

演奏：康明洙（カン ミヨンス）、李在浩（イ ジェホ）、河明樹（ハ ミヨンス）、李葉子（イ ヤンジャ）
石坂亥士（イシザカ ガイシ）、山田貴之（ヤマダ タカユキ）



サムルノリとは

サムルノリは韓国を代表する打楽器演奏アンサンブルで、韓国の農楽を再構築した演奏形式です。本来、韓国伝統打楽演奏団体の名称だったのですが、伝統芸術のひとつのジャンルを示す普通名詞として使われるようになって、今年で31年が経ちました。

サムルノリの「サムル」は漢字で「四物」と書き、4種類の打楽器を表します。「ノリ」は遊ぶ・演戯の意味で、英語の「プレイ」にあたります。このように、サムルノリとは、4種類の楽器で演戯するということです。サムルの楽器には、ケンガリ（小金）・チン（銅鑼）・チャング（杖鼓）・プク（太鼓）の四種類が含まれます。金属製の打楽器ケンガリ・チンは「天の神」の音、獣の皮を張った打楽器チャング・プクは「土の神」の音を表します。また、ケンガリは雷、チンは風、チャングは雨、プクは雲というように、自然界の音も表しています。

サムルの楽器は、お互いに協力しあって1つの音を作りあげます。金の音は頭に届き、獣皮の音だけ残れば意気が落ち、金の音だけ鳴れば意気がただ上がるだけです。しかし、サムルが本来のように調和する時には、天・地・人が調和をし、その音は我々の頭から足の先まで拡がり届きます。サムルノリの響きは韓国の伝統音楽の魂であり、そのパフォーマンスはエネルギーと躍動感に溢れています。

演目解説

1. ムクッ（門巫） キルノリ（行道遊び）

サムルノリ公演の門を開く通過儀礼で、サムルの音を響かせながら入場し、はじめて劇場内の人たちと同じ空間の気を共有して、チシン（地神）を抑えるものです。

2. サムド ソルチャング カラクッ（三道 ソル杖鼓）

韓国の京畿道・忠清道、湖南道、嶺南道地方の三道で名声を博したチャングの名手たちのカラクッ（リズム・旋律・節）を集めて整理・集成したチャングだけで演奏する曲です。

演奏者が座ってチャングの演奏をします。アンデミ ノルムセのオリジナル・バージョンです。

3. サムド ノンアク カラクッ（三道 農楽）

三道の代表的農楽のリズムを収集し、座ったままのスタイルで演奏するもので、サムルノリを代表する曲です。サムルの楽器を使い、韓国のリズムの中に潜む音楽の原理と自然界の理を、永き年月を通して磨きあげた深く永い呼吸で、丸く浮かび上がり、らせんを描き、積み上げ、または縮んだり解いたりさせ、一体になっていきます。

4. パンクッ

「サムド ソルチャング」と「サムド ノンアク」は座って演奏することで音楽的な面を強調しているとすれば、パンクッは遊戯性が強く、体全体を使いながら演奏します。「パン」は場、「クッ」は巫を表し、パンクッでは、頭にサンモ（リボンが付いた帽子）をかぶり、楽器を手に持つか身体に結びつけるかして、足では地を踏み蹴って踊り、頭ではリボンを回して天をかき回しながら演奏します。このように、パンクッでは足と手と頭が一つになった高い芸術的技量が要求され、その演奏を鑑賞する人たちと場を共有し、一体となり、天・地・人すべてを包み込むことが出来るサムルノリの白眉ともいえる演目です。



「アジア芸能の夕べ」へようこそ。

国際関係学部 文化芸術系 国際文化芸術研究センター
アジア芸能の夕べ 2010年11月14日(日) 18時～21時



大東文化大学
DAITO BUNKA UNIVERSITY

国際関係学部

〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿560
TEL0493-31-1513
FAX0493-31-1512
HPアドレス <http://www.daito.ac.jp/>